

論文審査の結果の要旨

報告番号	博(医歯薬)乙第 20 号	氏名	渡 邊 一 石
学位審査委員	主 査 河 野 通 明 副 査 西 田 孝 洋 副 査 岩 田 修 永		
論文審査の結果の要旨			
1 研究目的の評価 本研究は、多くのがん細胞において機能亢進が認められる ERK-MAP キナーゼ経路の選択的遮断が効果的な制がんに結びつく可能性を、それが様々な作用機構を持つ抗がん剤の細胞死誘導効果を増強する可能性と併せて、細胞培養系、及び Xenograft モデルマウス系で多角的に検討したもので、目的は十分に妥当である			
2 研究手法に関する評価 この種の研究成果を左右するがん細胞の維持、管理はもとより、細胞処理法、薬剤処理後の細胞応答解析法は適切に検討されている。また、がん細胞を移植したマウスの取り扱い、薬剤投与、各薬剤の抗腫瘍効果に関する統計処理も適切に行われており、これらの手法は高く評価できる。			
3 解析・考察の評価 上記手法で解析した結果、ERK-MAP キナーゼ経路の選択的遮断だけでは効果的な制がんに繋がらないが、それは微小管重合阻害剤の殺細胞・抗腫瘍効果を顕著に増強する事を、培養細胞系、さらにがん細胞を移植した Xenograft 系での解析より見出した。本研究成果は、新規がん化学療法の開発に繋がる可能性が大いに期待される。			
以上のように本論文はがん化学療法の開発に貢献するところが大であり、審査委員は全員一致で博士（薬学）の学位に値するものと判断した。			